

ご意見全文

(市立藤井寺市民病院のあり方に関する基本方針(案)についてのパブリックコメント)

※ご意見をそのまま反映するため誤字等の可能性がある文言も修正せず記載しています。

1番 60歳代

◎市立藤井寺市民病院のあり方に関する基本方針について。

今回、市民病院の閉院の検討について、驚きました。今回コロナ禍で、国の医療政策の失敗が明らかになりました。効率重視、財政重視で安全な医療への配慮が不足していることが明らかになりました。これにより、コロナ禍で救われる命も多数失われました。また、コロナの治療を優先するため、癌を始め他の治療が遅れ、他の疾患で手遅れになり、尊い命が失われました。また、財政優先で行われていた保健所の統廃合の為、今回のパンデミックに全く対応できず、右往左往する行政機関の脆さも明らかになりました。医療機関は、ただ医療を提供するものではありません。いざという時のセーフティネットであることが、今回のパンデミックで認識され、後世にも残してゆく教訓です。

警察や消防署に黒字を求めますか？自動車を運転するときに任意保険に入らずに運転しますか？医療機関、特に公的医療機関は、いざという時のセーフティネットであり、黒字だけを求めるべきではありません。今回、市民病院が機能していたおかげで、どれだけ藤井寺市民が恩恵を受けたか、心強かったか、計り知れません。またコロナ禍に率先して尽力した市民病院の職員の方々には頭が下がる思いです。その感謝の気持ちが喉元を過ぎてすぐに、市民病院の廃院を検討するなど、正直、今回の教訓が全く生かされていないのに、驚きと怒りを感じます。今回の市民病院廃院の最たる理由は、令和元年に厚生省の統廃合検討病院に、藤井寺市民病院が入っていたのが最大の理由でしょう。これはコロナ禍前の国の失敗した医療計画に基づくものです。誤った方策です。次のパンデミックはもう来ないと言えますか？南海トラフ大地震も予想されています。藤井寺市民に市民病院という保険は絶対必要です。潰すのは簡単です、しかし潰したら立ち上げることは至難の業です。ダウンサイジングして、藤井寺市民病院を存続することが藤井寺市民に絶対に必要と強く感じます。

後世に悔いのない藤井寺市であるべきです。これは、藤井寺市民全体に問いかける大問題です。必要なら、全市民で投票してその結果を国に強く訴えるべきです。誤った国の政策に負けてはいけません。後世に禍根を残すこととなります。

2番 20歳代

潰れたら困ります。

子供2人いるのですが、近くに小児科もなく絶対に潰さないでください。

絶対に潰さないでください。

3番 80歳代以上

市民病院問題は市民の財産です。市民の命を守る大切なものです。いくら市長といえども、十分な市民説明もなく結果論が先にありきのやり方に心底怒りをおぼえます。

市長は初心を思い出して下さい。市民病院は絶対に守ると言っていたのではないですか。近隣の方も含めどれほどの方が期待されているのか。コロナ感染の時も本当にみなさん頑張ってくれました。公立病院は私立

病院と違い利益優先のみではアカンと思います。市民の皆さんに依拠してもっともっと中身をよくして頑張ってもらえませんか。高いMRIの機器も購入し期待されているのです。市長のつとめは何でしょうか。今一度考えを直して市民に期待される行政の先頭になって下さい。

4番 50歳代

潰さないで下さい！

5番 20歳代

市民病院ぜったいに無くさないでください。
私たちの頼りどころになってるんです。

6番 60歳代

令和4年3月から足の痺れがあり、令和5年3月に近畿大学病院神経内科から紹介状を書いていただき、令和5年3月から市立藤井寺市民病院整形外科に通院するようになりました。

自宅から自転車で3分程で通うことが出来て大変喜んでいましたが、この度、藤井寺市広報8月号で、市民病院の閉院方針案を知り、大変驚きました。そんなことになっているとは全く知らず、廃院となった暁には、新たな病院かクリニックで診察を受けることになるのでしょうか？

現在、整形外科では車椅子や杖をついた高齢者の方が沢山来られています。そんな方たちを含めて、私はこれから先不安を感じながら、暮らしていかないといけないのでしょうか？

高齢者のことを第一に考えられない市政には未来はないと思い、反対の意見を述べさせていただきました。

7番 40歳代

市民病院は地域医療だけではなく近所に済む年配者や乳幼児の必要だと思うのでなくさないでほしい、と思います。

8番 50歳代

昔から地元であり、手術や大きな検査、体調不良で近場で診てもらえ、病気と共に通っています。この病院が無くなると本当に困ります。

色々持病もあり、定期的な検査や体調不良の時の治療など、この病院でなければ私は本当に困ってしまいます。

私立病院になっても、他の病院の支院になってもいいので存続希望します。
よろしく願いいたします。

9番 70歳代

藤井寺市民の閉院は大反対です。

長年、藤井寺市民の健康を守り続けてきて下さった病院を閉院すれば必ず病院難民が発生します。

医師の異動が以前から多い事は気になっていましたが殆どの先生は藤井寺市民病院で、このまま勤務したいと仰っていました。

どうか今後も私達を守り続けてください。よろしく願い致します。

10番 50歳代

MRI や手術目的などで患者様をご紹介する事があり助かっていました。閉院となると、ご高齢の患者様に

とって遠方の病院には通院しにくく大変だと思います。

入院患者様の受け入れが難しいなら、外来や検査等のみで受け入れをして頂くのはいかがでしょうか。
地域に寄り添う市民病院が閉院になってしまうのは困ります。

11番 30歳代

藤井寺市で働いている者として、いつもお世話になっている藤井寺市民病院が閉院されるのは大変困ります。MRIの紹介、各科への紹介をする場合、ご高齢の方は近い所を希望されます。現在も何年も藤井寺市民病院へ行かれています方たくさんいらっしゃいます。

私は個人の病院で働いていますが、MRIなど大きな検査をする時、市民病院がないのは大変困ります。どうか、閉院以外の方法で考えて頂けないでしょうか。色々検討されての事だと思いますが、どうぞもう一度考えて頂きたいです。

12番 30歳代

小児科を利用しています。

車が運転できないので、市民病院がなくなると自力でいける病院がなくなります。

藤井寺市には、特に土師ノ里周辺の小児科は少ないのでぜひ存続頂きたいです。

13番 60歳代

- ・今回示された基本方針（案）については反対です。
- ・市民病院のあり方として、閉院（廃院）を前提にして何ら具体的な方策がないのでは、地域医療の後退となることは明らかです。
- ・利用者の引継等についても、「診療を引き継ぐ医療機関等において適切な医療が受けられるよう万全の対応を講じる」というのは期待の表明でしかなく、具体化は見込めないと考えます。
- ・機能移転についても、どこへどのように実行し、その負担は誰が担うのかが不明です。跡地利用、閉院に関連した個別事項（財務、雇用など）は必要に応じ、随時、別に示すというのであれば、市としての責任放棄と言わざるを得ないと思います。
- ・地域医療の確保のために、これまで果たしてきた市民病院の医療機能を充実する方向であり方の基本方針を定める必要があると思います。

14番 30歳代

来年3月の閉院は反対です。理由は2点挙げます。

①子ども真ん中社会の構築にブレーキをかける。

小児科病床が少ないことは、第1回、第2回資料で明らかになっている。未就学児を持つ親の85%が就労している（令和4年度就業構造基本調査）なか、親が子育てにかけられる時間が少ないことから、近距離に小児科病床があることは親と子の生活を支えると言える。また、今、そして今後、小児科医療に求められるのは、虐待やいじめを受けた児童へのトラウマ治療など、児童精神科領域であると考えますが、この分野は広がりを見せていない。民間が参入しにくい分野に行政が役割を果たしていくことは、価値あることだと思う。そして第2回資料では、「小児科は公立病院の役割として期待される」とあるが、この分野の存続可能性の検討は不十分である。

②地域包括医療ケアシステムの構築に藤井寺市が責任を果たせないおそれがある。

虐待などの権利侵害への緊急対応、未診断の精神疾患疑いや認知症疑いの方など、より多くの人員によるケアを必要とする人々への対応が、コスト重視の民間医療機関に可能なのか。公務員は憲法15条で「全体の奉仕者」を規定され、憲法99条で「憲法を尊重し、擁護する義務」がある。国民一人ひとりの人権を保障する大事な役割の担い手である。これらの人々を権利侵害から守る義務は藤井寺市職員にある。藤井寺市

は、責任を果たす自治を実行できるという明確な根拠を市民と社会に説明しなければならない。

15番 40歳代

子が小児科でお世話になっております。

近所の内科から紹介されてかかることになりましたが、その理由は公立の総合病院だから他の科や医療機関につながるからということでした。

やはり市に1つはそういった民間の医療機関をつなぐ公立の病院があるべきだと考えます。

立地、収益が厳しいことは拝見しましたが、どうか公立の形で存続できないでしょうか。

16番 70歳代

市民病院は急性期病院として、地域医療の中心として、また、災害拠点センターとしても重要な役割があります。これまで、その大切な任務を継続してきました。経営が破綻したからという理由で廃院にするというストレートな結論にはがっかりです。

赤字をどう考え、どううめあわせていくのか、議論をしていかなければならないと思います。存続を希望します。

17番 70歳代

藤井寺市民病院は藤井寺市の東側にあり、周辺には2万人以上が暮らしていて、柏原市の玉手、円明地区の方達も通っている重要な医療機関です。その上、道明寺駅にも近く非常に便利なところに立地しているので廃院などとは考えてほしくない。

令和3年?の調査では対象の方の50%以上が藤井寺市民病院を利用したとありました。すごい利用率ではありませんか、それだけ信頼されている病院なのです。

廃院の原因の一つに赤字をあげられていますが、原因は「医者がいない、患者が減る、収益が上がらない」の悪循環であるのとは皆が認めていることです。家族や周囲の友人の話でも良い先生がいないと言う話は良く耳にしますし、私自身消化器内科でよくお世話になる先生が今はおられず、どうしようと悩んでいます。

市長、市議員、役所の方々が言う、建物が老朽化どうのこうのよりも、藤井寺市民病院に医者連れてくるのが大事な仕事だと思います。

令和3年から7年の改善プランには色々なことが書かれていました、期待もしましたが結果は「医者がいない、患者が減る、収益が上がらない」でした。

平成16年の研修医制度の改革により医師を獲得できない状態が起こっていることも聞きますが、今回の廃院の話のなかで「市長、市議員、役所の方々が」どれだけ医師の招へいに努力されたのか全然伝わってきません。説明会の後、他の市民の方々が「頑張って努力してもらっているのか分からない」、赤字だから廃院の話だけで納得できないといわれているのを聞きます。

逆うわさ話は聞きます。市民病院を民間に委託しようとしたが断られた等。ふれあい新聞には八尾富田林線の道路計画の沿道に新病院を誘致する等です。

中河内2次医療圏に属されているお隣の柏原市民病院は、以前から改革に取り組みされて受診者のアップや40名ほどの医師の確保に成功されています。

柏原市に出来てなぜ藤井寺市は医師の獲得が出来ないのでしょうか。

2025年には地域医療構想の実現や高齢者増の問題もあります。藤井寺市民及び近隣市民の方々が必要とされている藤井寺市民病院を、来年3月に廃院という結論でなく、「市長、市議員、役所の方々に」頑張っていただいで継続して運用していく方策を考えていただきたいと思います。

市民が協力できる事もあると思います。ピントがずれているところもあるかも知れませんが、「ジェネリックを処方してもらう」、「市民病院に通院する」、「診察順番表示などあまり要らないサービスは要求しない」等。

病院の改革では働いて居られる方々には非常に無礼なことを言いますが、「院内に薬局は必要ですか」とまだまだ改善する余地もあると思います。最初に書いたように、藤井寺市民病院は藤井寺市の東側になくはならない病院です。藤井寺市の西側に住まわれている方々は、バスで羽曳野病院、城山病院、青山病院に通院しやすいですが、東側には藤井寺市民病院しかありません。残念ながら藤井寺の西方面に住まれている議員の方で、全く藤井寺市民病院の重要性を考えていない方もいました。先ほどのふれあい新聞の報道でも藤井寺の西側です、これができれば藤井寺の西側の南部、北部に病院ができることになります。

道明寺、国府、梅が園が位置する藤井寺市の東側には多数の市民がいます、75歳に近づく団塊の世代も沢山います。土師の里支所が老朽化で閉鎖する計画は理解できますが、健康にかかわる藤井寺市民病院の廃院は絶対に賛成できません。藤井寺の東側をもっと見つめてください。

是非、この計画を見直して藤井寺市民病院の運営を続けてほしいと思います。よろしくお願いします。

18番 70歳代

まずは、私の意見の趣旨といたしますか、結論から申し上げますと、市立藤井寺市民病院のあり方に関する基本方針（案）については、支持します。

藤井寺市では、基本方針の作成を目的に、令和3年度から市民病院のあり方を検討されているわけですが、その理由という課題として挙げられているのが、施設の老朽化であり、慢性的な経営赤字であり、浸水地域の立地などであると資料等に記載されていました。

私なりに考えてみれば、この課題解決のために、平成13年当時に既に検討を始めていたのかなど、その際の市としての方向性は移転新築であったと認識しています。その後、市長交代により計画が凍結され、耐震化・リニューアルとなった時点から、根本的な課題が解消されずに約15年が経過していることは、残念なことでもあるのです。言い換えれば、移転新築を凍結した時点で、市民病院のあり方を議論していただければと。。。。。

今回、従前からの市民病院が抱える、ある種、慢性的で基本的な課題に加えて、令和元年に再検証要請医療機関の一つに挙げられたことは、市民病院の新たな方向性を示さなければならぬことであると理解しました。つまり、私自身、現状のままでの存続は無理といわざるを得ないと思いました。

しかしながら、公立病院として、不採算部門であっても担うべき診療科目があるのではないかと、素人なりに、ふと、頭に浮かびました。その答えも含めて、様々な角度から専門家の方が検討された内容が、「市立藤井寺市民病院あり方検討についての答申書」に記されています。すなわち、専門病院に特化することも、医師の確保及び採算面で厳しいのかなどの結論に至りました。

岡田市長及び市議会議員各位におかれましては、病院経営の困難度合いというか、医業損益が拡大すること、また、医師の働き方改革がスタートする来年度以降の医師確保がますます厳しくなる現状をしっかりと認識していただきたいと思います。

これ以上、赤字という傷口を広めないよう、令和5年度末にはしっかりと閉院してください。そのためには、市民病院の入通院患者の診療引継ぎ医療機関の確保等に、まずは尽力していただきたいと思います。

まとまりなく意見しましたこと、また、認識誤りなどありましたらお許してください。

19番 60歳代

① 先日、説明会に出席しましたが、(案)は市民病院を廃止することを前提としたものであり廃止させないためにもっと市民の意見を聞くことも必要ですし、市長を先頭にした努力を重ねもっと汗を流すべきである。

今の時点では市民は病院廃止を納得していない。市民の前に急に出てきたものでありもっと時間をかけて手順を踏まえてやるべきだ。

② 市立病院の公共性について市民のいのち暮らしを守る視点から言えば簡単に着地点を廃止に繋げてはだめだと思います。

民間病院と違い危機管理や災害が発生した場合民間と連携していても市民病院を持っているところはスムーズに話が通じ迅速な動きができる。このことはコロナ禍のもとで市民病院の優位性が大いに発揮できたことで証明されている。具体的には入院、検査体制など無理なお願いをしても受け入れてもらうことができた。

③ 赤字ばかりを全面にだすのではなくどうすれば収入を増やすことができるのか市民の知恵をかりながら検討すべき。そのような市民も含めた検討委員会を作ることも考えてほしい。

④ 私は、以上の点で今まで手をつくさず今日まで至ったことについて行政側は反省しもう一度市民病院の存続に向けて努力すべきだと思う。

20番 30歳代

今回、基本方針及びアクションプランを開示いただき、ありがとうございます。関係者の皆様にとって、経営と公的サービスという、天秤にかけにくい、難しい判断基準の中でまとめ上げられた案かと思えます。

しかし、私自身も過去に手術を行なっていただき、また私の子供もかかりつけとして市民病院の小児科を受診していた身として、今回の基本方針案を拝読した際、閉院を前提とした取り組み、アクションプランをととても残念に思い、また市民に対する説明として以下の点が不十分と感じました。

①アクションプランの策定において、取り組み内容、その評価項目が明確でない。令和四年以降の活動計画が更新されていない。評価の内容、具体的項目と指標、その達成率、結果の公表が必要と感じました。短期間で結果の振り返り、計画の更新なく、アクションプランは策定も評価もできないと思います。それらをもとに経営の黒字化が困難と決めつけることは、結論ありきであり、具体的改善策を実施していないように感じました。

②経営不振の理由として、医師不足を挙げているが、他公立病院と比較の際、なぜ藤井寺市民病院で医師不足に至ったのか、原因の分析が行われていないように思います。他の経営状況に波及する根本的な原因として医師不足を挙げるのであれば、そこに至った原因、および改善策をアクションプランに反映頂きたいです。

③令和元年を境に経営不振が予想されている中、電子カルテシステムを新調、診察用のコンテナの新規設置、CTの更新等行われています。そこには必要性の検討がなされていたのでしょうか？

新型コロナ等、感染症への対応は各医療機関、診察時間を分ける、診療所の外で検査を行う等、設備投資のかからない方法をされてる医療機関も多いです。

設備投資の妥当性は検討されていたのでしょうか。また、それらは閉院後も利用する検討はなされているのでしょうか？

④閉院後、CTはじめ各資産また、その後の土地活用等について言及されていないように思います。有床診療所や、検診センター等として3期棟、新棟を利用するなど、また近隣に小児科がない地域ですが、近隣に医療機関のない診療科の存続はないのか？その後の土地活用はどのように考えられているのか？

それらの検討も併せて示して頂けないと、ただただ閉院します。だけでは受け入れ難いと感じました。

21番 60歳代

8月11日パープルホールでの説明会に参加しました。

正直会場の雰囲気には驚きました。

国会での与党案に対する共産党の集中発言のようでした。

厚労省から「再検証要請対象医療機関」の通知があるよりずっと以前から市民病院の継続努力の中で、時折、病院の廃止が検討されてこられたように思っています。

現在の市役所担当者様だけでなく、これまでの市民病院問題にたずさわってこられた職員の方々の多大な努力の結論が提示された『基本方針』だと考えます。

たいへんだと思いますが、この機を大切に確実に進めていただきたくお願いいたします。

22番 50歳代

市立藤井寺市民病院なくさないでくださいね。
はなしあいおしてほしいです。もいかいはなしあいおききにいきたいのとおねがいします。

23番 70歳代

両ひだにじんこうかんせつしました。しじつました。
やかんしんりようしてください。
きゆきゆしてください。

24番 70歳代

病院経営が赤字だから廃院すると言うのは安易な考えではないですか。また岡田市長以下藤井寺市当局の病院存続の努力が全く見えない。

「地域住民の適切な医療が確保されるよう努力を求める」との答申がなされたように、岡田市長がイニシアチブをとって病院在続であらゆる努力をしてもらいたい。それが「市民の生活、命、健康を守る」という岡田市長の使命ではないですか。公立病院の廃院は地域住民に重大な影響を及ぼします。一番困るのは通院されている患者さんで行き場がなくなります。

基本方針（案）の説明会も3回しか持たれず市民の意見を聞こうとする姿勢が全く見えてこない。もっと回数を増やすべきである。

提出した意見提出用紙の内容は必ず市長が目を通して下さい。

25番 80歳代以上

近くて通院が便利だった市民病院が亡くなったら年老いた私が行ける所がなくなります。
どうか市民病院を亡くさないで続けて下さい。
年寄りを見捨てないで下さい。

26番 40歳代

急激な経営悪化に陥る前は、令和5年3月20日開催の有識者のかたを含めた市立藤井寺市民病院あり方検討委員会（第3回）において、民間活力の導入を図る方向でいくことが示されていました。

市立藤井寺市民病院では、令和3年にCTを買い替え、平成24年にMRIを導入しており、高度な医療検査機器の病院として地域の医療機関から検査の紹介を受けてきました。

市立藤井寺市民病院の1期棟、2期棟は古いですが、CTのある3期棟、MRIのある4期棟は比較的新しく取り壊しが必要な状況でもありません。ですから、3期棟、4期棟の放射線科だけの検査専門病院として生まれ変わるなど、ニーズに合わせてダウンサイジングして民間医療法人等に事業継承していく方向が最も望ましいと考えます。

廃院となれば建物取り壊し、それまでの維持費、医療機器等廃棄費がかかり、医療従事者等従業員の仕事・生活面でのリスク、患者様の診療機会損失のリスクがかかります。事業継承できればリスク・費用の軽減になり、譲渡料金を受けることができます。既に水面下で取り組んでおられるとのことですが、廃院よりも、市も患者様も受けるダメージの少ない事業継承の実現に向けてこそ、取り組んでほしいです。事業継承することを第一に、条件等は相手に寄り添って進められることを願っています。

27番 70歳代

自治体の役割は当り前の事ですが、住民の命と暮らしを守る役割があります。その先頭に市長と自治体職員が果たさなければなりません。残念ながら、今回の市民病院廃院問題は明らかに逆行しています。市民の

声を聞くといいながら、今回の市としての市民病院の評価、考えは極端に言うとは廃院ありき前提を並び立てたもので、これまで何の手も打ってこなかった自分らの責任を言わず全く無責任です。今まで頑張って藤井寺市の様な小さな市で市民病院を守ってきたと評価していましたが、今回岡田市長が簡単に廃院する先頭に立っている事が非常に残念です。

市長、今藤井寺市は赤ちゃんを産むことができない市で、みんな他市で産んでいます。私事ですが、私の娘もそうでした。思い出しましたが、娘に陣痛が起り車の中で破水。突然の事でハンドルを持っている手が震えていました。あの時藤井寺市に赤ちゃんを産める病院があればこんな経験しなくてもよかったです。将来の藤井寺市の事を考えて下さい。市民を守るため市民病院の充実拡充をお願いします。

28番 80歳代以上

8月11日に行なわれた「説明会」に参加しましたが、市長はじめ担当課職員の説明は何故市民病院を廃院にするのかを市民が理解し、納得できるものではありませんでした。時に市長の「あいさつ」は市長としての自覚・役割を全く放棄している無責任きわまりないものでありました。「あり方検討会」も「廃院」ありきからの出発で、市民の健康・命をどう守り、そのためにどのような対策が必要なかが全く議論されていないのではないか！また医師が次々とやめていかざるを得ない状況への対策、努力がされていない状況が浮きぼりになりました。

南河内地域での唯一の公立病院、藤井寺市民の財産である市民病院を無くす事に断固反対します。

再検討される事を切に願います。

市の行政の役割は「市民に役立つ所」です。

29番 60歳代

説明会を聞いたかったけど市長を脅迫するような怒鳴り声が聞こえてきて中に入れませんでした。誰かが市長を責めるといやがらせみたいな拍手があったり、そうだそうだといってみんなではやし立てたり、まるで政治集会みたいな雰囲気でした。あれでまともな話し合いなんてできるわけがありません。

市民の意見を聞けとか言っていましたが、普通の市民は市長を怒鳴りつけてあんな脅迫のようなことはしないんじゃないでしょうか。少し聞いただけで怖くなって帰りましたが、私みたいな市民もいるので、説明会では怒鳴ったり拍手したりしないよう市役所の職員さんをもっと注意をしてください。

少なくとも私の周囲では何億もかけて市民病院を残してほしいなんて言っている人はいません。そんなことをするくらいならもっと他のものにお金をまわしてほしいです。一部の声の大きな人たちの意見だけを聞かないで岡田市長は責任のある判断をしてください。

30番 70歳代

信じられません。病院を廃止するなんて。

私若い頃お金もないので、市民病院の内科にお世話になりました。裕福でない人間が安心して行ける公の病院をなぜ廃止するのですか？市民と言うより、一個人が安心して行ける公の病院が不可欠なのです。

お願いします。藤井寺市民病院を存続させて下さい。

名も無き、財も無い弱い立場の一個人のお願いです。

31番 70歳代

27年も前ですが、市民病院で乳ガンの全摘手術を受けました。そのころ藤本院長先生が乳ガンの権威でまわりの市や奈良や大阪市内からも受診され、乳ガンの患者の会があり、100名以上の会で交流していました。

特色があり、いい先生がおられるということは大事だと思います。現在の状況になるまでどういう努力をされてきたのでしょうか？

コロナ感染者の受け入れも、全国で7割か8割多くは公立・公的病院が担っていた（民間病院が悪いというわけでないが）ときいています。

それでも大阪は亡くなった方が国内で一番多かったのは、保健所を減らし、急性期病床を減らしてきた結果だと思います。

市民が安心して行ける公立の病院をあの場所に限らず、守ってください。

来年3月末廃院は白紙に戻してください。

32番 70歳代

藤井寺市民病院をこんな急に廃院の方針を出してもよいものでしょうか。

8億の赤字とありますが、まず赤字を解消すべきことがないのかを考えるべきです。また、藤井寺市民病院の果たしてきた役割を放棄するものです。災害拠点病院は廃院後はどこが担うのでしょうか。

急に廃院を決めることなく、冷静にあり方をもっと時間をかけて議論するべきです。

国の地域医療構想のもとにということが答えとして考えられますが、国はなにも地域のことは考えていません。

33番 70歳代

市民病院の建て替えができないなんて昔からわかっていたこと。いまさら何を言っているのか。

大赤字で経営ができないなら、これ以上税金をむだにする前にさっさと廃止して、他に回せばいい。

用のなくなった病院を残した挙句、毎年多額の税金をかけるなんて馬鹿げている。限られた財布の中身でやりくりしていくしかない。必要のなくなったものはどんどん切るべきだ。市長は正しい判断をした。

くちさがない者はお金の問題じゃないなどと言うが、お金がないから病院をやめなければならぬのに税金の問題じゃないとはどういうことか。誰か藤井寺市に毎年何億も寄付してくれるのか。

市民病院を続けるお金がないならいなくてもはっきり示すべきではないのか。

34番 70歳代

1) 基本方針案の前文にある「市民病院では、令和5年度に入り、医師不足等により診療機能が低下するなど、収支状況が急速に悪化している」について。

「医師不足」について原因の究明、改善策の策定結果、また「診療機能が低下」「収支状況が急速に悪化」について、具体的な説明がないために、説明責任を果たす以前の問題がある。説明責任を果たすため、抜本的に補充説明すべきである。

2) 基本方針案の前文にある「委員会からは、早期閉院（廃院）と民間活用による機能移転の方向性を示した答申が令和5年6月になされた。これを踏まえ、市においては市民病院のあり方について市民の理解を得るべく、以下の基本方針案を取りまとめ」について。

意図的な事実のねじまげを放置せず、事実即して正確に記述すべきである。

事実は、市長が第5回あり方検討委員会（6月19日）で「4月に入って以降、市民病院そのものの経営困難化の見通しが立ち、最終的には（令和6年3月末に）閉院もやむなしという方向性で検討結果をまとめる形となってしまいました」と答申（6月29日）前に閉院を決定したと説明している。

3) 説明会資料の「今後の予定」に、「利用者（患者）の引き継ぎ、市民病院の機能移転、連携病院の確保等、今後の検討事項については別途お示ししていく」とある。

事務局はあり方検討委員会で「この情報の公開に当たっては、市の方も今後の対策をセットで説明していく」の発言に即して、直ちに是正すべきである。会議でおこなった発言をなかったことにする行為は許されず、行政に対する信頼を自ら放棄する所業である。

4) 基本方針案の「基本方針」に「地域医療の交代とならぬよう努める」について。

答申の前文には「地域医療の停滞や市民生活に支障を生じることなく」とある。地域医療の「停滞」にま

で、同様に市民生活に言及している。

なぜ「停滞」を「後退」にへんこうしたのか、なぜ「市民生活に支障を生じることなく」を削除したのか明確に説明すべきである。

5) 基本方針案の「基本方針」に「引き続き地域住民の適切な医療が確保されるよう、可能な限り他の医療機関等へ協力を求める」とある。

「可能な限り」と記述することによって、市の責任回避を画策する立場が透けて見える。不適切な字句は削除して、市の責任遂行を明記すべきである。

6) 基本方針案の「利用者の引き継ぎ等」は、答申の「利用者への説明について」を改変している。

答申は「現下の状況を踏まえ、迅速に利用者への説明を行うべきである」とあり、利用者への迅速な説明を求めている。改変した理由を明らかにするとともに「迅速な説明」を求めた答申を尊重して訂正すべきである。

7) 基本方針案の「機能移転」で、答申にあった「その他の診療科目についても可能な限り移転に努めること」を削除している。削除した理由を明らかにするとともに、答申を尊重して加筆すべきである。

8) 基本方針案の「連携病院の確保」の記述が、答申の記述と逆になっている。

基本方針案は「連携する病院を確保」の後に「医療機関の確保」を記述、答申は「連携する病院を確保」の後に「連携協定の締結」を記述している。

まず「連携する病院の確保」が優先されるべきで、答申のように訂正すべきである。表題通りの記述とすべきである。

9) 基本方針案の「連携病院の確保」に関して、答申には「市の医療・健康・福祉施策と連携する病院を確保する」とある。

基本方針案で、なぜ答申を尊重する標記にしなかったのか。あり方検討委員会の論議でも「福祉施策」は重視された内容であるので、加筆すべきである。

10) 基本方針案の「跡地利用」に「本基本方針とは別に示す」とある。

事務局の発言「今後の対策をセットで説明していく」に反することで、「別に示す」は到底認められない。説明責任を果たすことなく「閉院」を強行する姿勢は、市民の信頼を裏切るものである。

11) 基本方針案の「跡地利用」について「答申に示された内容を尊重し」とある。

この部分でのみ「答申で示された内容を尊重し」と記述しているが、答申を資料として提示することもなく具体的な説明もおこなっていない。

不誠実な対応に終始している点について、謝罪と訂正をおこなうべきである。

12) 基本方針の「その他の重要事項」に「解決すべき個別事項（財務、雇用など）については、必要に応じ随時、別に示す」とある。

事務局の発言「今後の対策をセットで説明していく」を撤回する対応で承服できない。

とりわけ答申では「経営継続の努力について」の中で「病院を支える職員に対して、十分な説明を行い、医療サービスが適切に提供できるよう協力を得て、その維持に努め」と記述している。

市当局は、病院職員への説明、協力要請など、必要不可欠な取り組みに、きわめて消極的な態度を続けている。病院職員に対する不誠実な対応を抜本的に改めるよう求める。

13) 藤井寺市長は8月14日、SNSへの投稿で「8月9日、11日に藤井寺市民病院のあり方に関する市民説明会を開催いたしました。方針に反対のお声も多く頂きましたが、市全体の財政への影響等を考えると今年度末の閉院はやむを得ないと考えます。市民の皆様にご理解いただきたく今後も説明をつくして参ります」と発言している。

これは、市民説明会やパブリックコメントの実施意義を否定するばかりか、市職員の頭越しに市長独断での市政運営を宣言するものです。説明責任は放棄する一方で、市長権限で専決処分するとの態度表明は、地方自治と民主主義を否定する行為です。市長には、今回の不適切な発言を撤回すること、市民の声を徹底して聞いて市民の命と健康を守るために努力を続けることを求めます。

35番 70歳代

この基本方針については全く理解にくるしむ。

第1に古くなった建物というような表現がありますが10数年前に耐震工事をされたし新しくなっておりますので建物自体は古くないと思います。

第2に、収支についてですが、この数年悪化しているようですがコロナのせいで悪化しているようにも思いますが数字のデッチあげではと思います。

第3に、医師を見つけにくいとの表現がありますがその意欲に乏しいと思います。

第4に、市長は、市議会に相談されたのか？他市の例もあり市長個人が決められたにすぎないと思います。

36番 70歳代

便利がいいし、なくなってしまうないようにお願いします。

先生もいい人なので。

ぎいんへらした方がいいですよ。

37番 80歳代以上

長い年月の歴史のある病院です。

市民のためぜひ残してほしいです。

38番 60歳代

患者の気持ちになって考えられているんですか。

またはじめからちがう病院にいきたくない。

入院してる人、病院で働いている先生、看護師さん、みんな生活もかかっているのに市民病院って市民のための病院やのどこに行けばいいんですか。絶対反対。

39番 50歳代

市民病院が無くなったら今は自転車で動くことが出来るが老後が不安です。

今も2か月に一度通院しており不安です。

母も通院しており困りますね。

40番 70歳代

市民病院には大変お世話になっています。潰瘍性大腸炎にかかっています。地元で市立の安心した病院があり日頃の我家のドクターとして定期検診、インフルエンザ、コロナなどの流行病、又、ケガ「じ」などにては手術（入院可能）の為、大変たすかりました。公報で今回の状況を知りました。新たに新設でなく現在ある公立病院は絶対残してほしいです。

大少料金高くなってもタクシーで行くと交通費もアップし、車は高令で無理で事故の危険もあり必ず残してほしいです。

41番 40歳代

藤井寺市民病院の閉院は絶対に反対です。

私自身、家族共に市民病院で何度も治療して頂きました。

お薬は院外処方への変更等で赤字を減らす事が可能です。

私達を病院ジブシーにさせないで下さい。

市民病院閉院反対です！！

42 番 70 歳代

絶対反対です。
藤井寺市民病院は命をつなぐ所です。
何度も命を助けて頂きました。病院難民になります。
希望ですが薬局の薬を外に出し必要な入院患者様の分は院内で出す様にほしいです。
少し位金額が上がっても誰も何も言わないと思います

43 番 80 歳代以上

大腸、脳、肺等年一回精密検査を受けているのに当病院が無くなると大変困ります。
是非共継続していただくようお願いします。

44 番 50 歳代

市民病院がなくなるとこまります。
他の病院に行った事はありません。
続々を希望します。

45 番 70 歳代

市民病院をなくさないで下さい。
お願いします。

46 番 60 歳代

市民病院をなくさないで下さい。
お願いします。

47 番 30 歳代

市民病院の存続を強く望みます。

48 番 80 歳代以上

高齢社会の中市民病院は必要条件。
最優先で市民の健康予防は守る事は藤井寺市民にとっての死活問題。
傾向と対策 府市町村の条件をデータかし存続を切に願う。

49 番 30 歳代

私は、現在、藤井寺市内の高齢者施設で働いていて、2年前まで藤井寺市に住んでいました。私の藤井寺市民病院の率直な印象は、高度な専門医療を行うわけでもなく、簡単な手術と入院のできるかかりつけ医が集まるメディカルビルのような存在であるとの印象を持っています。私の周りでも、かかりつけ医の紹介で実際に入院しているのは、近大病院や大阪南医療センターであり、八尾市立病院です。

病院としての強みや特色がない感じの市民病院は、病床数も少なく、経営面で相当厳しい状況にあるのではないかと思っていました。今回の市立藤井寺市民病院あり方検討委員会の答申書を読む限り、市民病院が想像以上に深刻な状況にあると認識するに至りました。そこで、急性期ではなく回復期・リハビリを担う病院とした場合でも、現状とさして変わることなく経営面や医師確保の面で、厳しい状況は変わらず続くので

しょうか？ いずれにしても、ハードの老朽化を解決するには、莫大な費用がかかることが明らかですから、どのような形を取ったところで市民病院を存続させる手立てがないように思います。無理に存続させることで、市の財政が立ちいかなくなるのでは、本末転倒のような気がします。

今回、様々な資料や検討委員会の委員の先生方の意見をお聞きするにあたり、令和6年3月末日をもって閉院（廃院）することは、やむを得ないのではないかと思います。どのような公共施設にしる、既存施設の閉鎖を決断することは、トップとして厳しい決断となるものですが、後世に遺恨を残さないためにも、はっきりと、今回の「市立藤井寺市民病院のあり方に関する基本方針（案）」に沿って進めてください。

また、基本方針に沿って進めるにあたっては、市民病院の利用者お一人おひとりの希望には、耳を傾け、ひと言たりとも、聞き逃さないようにしていただくことを切に望みます。

ラストのひとりまで、入院患者はもちろんのこと、通院患者にも適切な医療が確保されるよう医療機関へ、協力を求めて下さるようお願いします。

50番 40歳代

先日、3回目の説明会に参加しました。市の説明は「ありきたり」「一般的」「誰でも言えること」の印象しか残りませんでした。また、説明会が3回目にもなれば、すでに同様の意見や質問が繰り返されていることもあって、より、回答が機械的、なかには、回答を意図的にスルーさせていると思わざるを得ないものもありました。例えば、現場の最高責任者である病院長が説明会に出席していないことを尋ねた質問。数名が質問したのに回答なし。しびれを切らした市民多数からの「病院長は？」「回答がない」の声の盛り上がりにつけたかのように、「行政部門で…。事務的な面で…」といった、疑問に正面から答える気のない回答。いったい、どういうつもりでの説明会だったのか、甚だ疑問が残りました。

私は身内に市民病院の職員がいます。閉院すると職員は無職になります。給与がなくなります。将来の人生設計が狂います。子どもの教育資金が不足します。子どもに我慢をお願いせざるを得なくなります。病院の職員は市に雇用された「藤井寺市の職員」です。閉院しても市民病院以外に勤める「藤井寺市の職員」は、給与も減らなければ、生活は何ひとつ変わりません。市は、市民病院の立て直しに本気で取り組んでいたのか、医師の確保のために懸命に駆けずり回ったのか、あらゆる知恵と工夫を出し合っていたのか、それらが不十分だった末の閉院で、しわ寄せやツケだけは、なぜ病院に勤務する職員だけが負わなければいけないのか。「本気で、懸命に取り組んでいた」という言葉はまやかしです。そうであれば、「藤井寺市の職員」全員で責任を負うべきもので、病院に勤務する職員全員の再雇用先（本庁勤務を含む）も確保するべきです。

3度の説明会で出された意見、質問や、パブリックコメントは「貴重な意見として検討材料にすべく市に持ち帰る」と、「あり方検討委員会」の方はどなたも発するでしょう。本当に「貴重な意見」として取り扱うなら、圧倒的多数で出されている「閉院反対」「病院の存続」から目を背けることはできないはず。今一度、白紙に戻して、改めて、存続か閉院かを話し合うべきです。市民や職員みんなで、知恵を出し合い、意見をぶつけ合う。考えつくしたのか、できそうなことはやり切れたのか、そのうえで、やむなしなのか。ちょうど、白紙に戻すいい機会だと思います。赤字予測が出ていますので、白紙から、市民を巻き込んだ検討会、病院改革等々をスピーディーに進めれば、大きな損失にはならないと思います。市民抜きで閉院を決めてしまうことのほうが市にとっての大きな損失になります。市においては、寛大な気持ちで、市史に残る市民一丸となった「病院改革」の新たな提案を期待します。

51番 80歳代以上

院内処方や駐車場料金無料など、以前から随分緩い経営環境との印象を持っていました。

医師不足等、数年前からの現象ですね、これらを含めて変化に対応して来なかった。

市民病院の窮状を、住民に訴えて来なかった。

入院・外来患者の近隣からの紹介が少ない、医師が集まらない等、改革プランに提示されていますが、市が藤井寺市域内の個人医院等に積極的な患者紹介要請など、努力されたんでしょうか。

これまでの、行政の不作为の結果としか思えません。
「廃院案」の撤回を求めます。

52 番 50 歳代

まず、「市立藤井寺市民病院のあり方に関する基本方針(案)」ではなく、「市立藤井寺市民病院の閉じ方に関する基本方針」とすべきである。市民説明会やパブリックコメントなど、閉院に向けてのアリバイ作りでしかないということを隠しても市民も従業員もそれを見抜いていて、納得するはずがない。

そして、収支状況が悪化したので閉院します、医師確保が困難で収支状況が悪化した、などという「直接死因」だけ示しても、なぜ収支状況が悪化するほどまで医師確保が困難になったか、その原因には触れられていないのはどういうことか。派遣元の大学医局自体の医局員減少も理解できるが、それならば同様に意思を派遣してもらっている他の医療機関も藤井寺同様、閉院しないといけないほどの状況になっている施設ばかりなのか、それとも藤井寺だけなのか、はっきり示してほしい。もし藤井寺だけなのであれば、なぜ藤井寺だけなのかその理由もしっかり説明しないとイケない。

そして提示されてある資料では、収支のグラフが平成 30 年以降のみであり、これだけみるとあたかもずっと赤字だったという印象を受けるが、平成中ごろまで遡ってもずっと赤字だったのか、ちゃんと示してほしい。そこでもし、どこかに赤字に転落する時点があるなら、そこで何が起こっていたかを検証すべきである。

令和の御代になっても藤井寺市はお上の「依らしむべし、知らしむべからず」をまだ堅持しているような古い自治体で、何事も動くのが遅かったり、意見具申してもできない理由ばかり並べたてられ取り付く島も無いので今回のような事態になったと思われる。

病院の事務方は従業員すべてに今回の事態に至った責任があると言っていたが、従業員に責任があるとするれば、今回の事態に陥る前に事態を改善させるであろう方法を知っていたのに、それを具申し、検討してもらい機会と場を作ることができなかったことである。たれば物事を語るのはいくつかは思うが、悔やまれることである。本庁はこれまでの経緯を知らなかったのか、見て見ぬふりをしていたのか。

閉院は不可避であろうから、本庁の人事課はせめて従業員の再就職の希望は聞いてやってほしいものである。

ちなみに、閉院は市長と院長が裏で結託して仕組んだことである、という陰謀論を複数の全く異なる情報筋から聞いた。深く静かに広まっているようである。

そして市民向け説明会に病院長が姿を見せていないことを激しく糾弾する。

市民病院従業員のほとんどは病院長の無責任・不作为が今回の事態と招いたと思っている。

53 番 70 歳代

私は、国府に住んでいますと申します。

この度市民病院が「廃院」とされると聞き一言ご意見申し上げます。

藤井寺市民病院となる前の道明寺病院だった時、私は羽曳野市の駒ヶ谷に住んでおりました。駒ヶ谷には医院もなく病気になった時は隣の古市内の医院にかかったり、入院の必要な時は道明寺病院を利用しておりました。

結婚をして藤井寺の道明寺に住んでいた頃、小学生の子供が虫垂炎にかかり急いで道明寺病院で診察を受け、すぐに手術をしていただいたことですごく安心しました。近くで診察を受けれたことが、安心につながったと思っています。

経営が悪化したからと言ってそれだけで廃院にされることには反対です。市からの支援で立ち直す手立てを打てるのではないかと思います。

また、必要な医師については最善の努力をしていただき医師確保に努めてください。これからも市民の安心、安全のための市民病院の発展に努力をお願いします。

54 番 70 歳代

廃院反対の立場でコメントします。

9 日心技館での説明会に出席させて頂きましたが、市長の挨拶にまず愕然としました。まるでもう廃院が決まったのごとき挨拶、全く立て直しをしようなどの気がありません。当然内容も廃院ありきで市民の皆さんに説明させて頂いたという「ありがとう」作りのようでした。

そもそもここに至るまで、どれだけの対策がされてこられたのでしょうか。医師がたりないというならどれだけの努力をされてこられたのでしょうか。

基本方針には何の具体策もありません。可能な限りとか出来る限りとか抽象的な言葉に推移し具体的な方針が決まってはいませんか。

それに一日のしかも説明会 1 時間、質疑 30 分一人一間で説明が終わったと考えられるのでしょうか。もっと、真剣にここまでやってきましたが、というような、説明がありません。只、医師の確保が難しいとか、どれだけ人材確保に奔走されたのでしょうか。私も昨年よりここで働かせてもらえるようになり、働けるうちはと喜んでいて矢先で寝耳に水であります。

これだけの重大な懸案を高々 1 回のしかも 1 時間の説明会で時間がないのでという説明に全く納得いきません。

規模を縮小した小児科に特化した病院とか、具体的に検討したならそこまでの説明をして理解を得なければいけないのではないですか。

55 番 70 歳代

まず、手続きについて。説明会での意見聴取やパブリックコメントを求めながら、「もっと意見を聴く機会を設ける（心技館での回答）」といいつつ、「反対のお声を多く頂きましたが…」とのツイッターをみて市民の意見なんか聞く気がないとわかり、呆れてものが言えません。決まってもいないのに、病院の医師からどこかへ転院するよう言われて困惑し怒っている人もいます。「閉院ありき」で既成事実を重ねるやり方は独裁としか言いようがありません。内容として、①医師が確保できないのも、確保の努力もせず病院を潰す口実としか見えません。病院長が出席されなかったのも納得できません。②説明会でも求めましたが、コロナ以前の財政状況を明らかにしないでこの特別な状況での赤字を理由とするのは理屈が通りません。赤字をなくす努力も見えません。③災害拠点病院としての役割についても明確・具体的な内容が示されていません。④入院できる病院が近くに無くなることは高齢者にとって特に不安です。廃院ありきでなく、市民の要望に沿った市民病院を存続させるよう、強くもとめます。

56 番 70 歳代

市民病院は公立病院として残して下さい。

市民説明会を聞きに行きました。市民の意見を聞いてどうするのかを決めるのが筋ではないでしょうか。廃院を決めてしまってパブリックコメントは逆ではないでしょうか。

市民の財産である市民病院は残すべきです。市民の声を聞いて欲しいです。

57 番 60 歳代

岡田市長はファシストですか！

独裁者ですか！

市民の声を聞く市政を実行すると言いながら全くそれと逆のことをする歴代まれにみる悪政です！

まだパブコメの受付期間が残っているのにツイッターで市民病院を無くすと投稿するなんて信じられません。

民主主義のカケラもない！この日本は民主国家なのに！岡田一樹が市長になって藤井寺市民は悪政のツ

ケを背負わされるのです。
なんと不幸でしょう！

58番 70歳代

9日体育館説明会、出席しましたが・・・有り方検討委の答申と財政難のみが前面に“3月末閉院”が先行・・・結果、住民や病院従事者への説明不足の感あり！！

・席上、区長会どうのこうのと長時間自説を口にされた方おられ●が・・・閉院＝マイナスの案件処置されるにはすべてを良しとする質問者は極少。問題有るが行政の方向にしかたなく同意する。理解者多数と考える。従って行政側は理解を得られる将来的医療展開の方向付け説明も必要と考えます。－答申をたてに説明会開催＝気配り不足－

提案・20年～25年後の市の人口：5万人切れるとおもいますが、すると藤井寺市は周囲の市との吸収合併も視野に入れる必要有り。合併先は八尾市・松原市・羽曳野市いずれと？

・5月に柏原市民病院3回程白内障治療して頂きましたが、11時半頃になると全く外科利用者無く、リッパな建屋建替え、今後、市の財政圧迫にならないか、部外者ではあるが心配！！

・現在、20代30代の市民が25年先、働きざかりの50才となり、今、10代の子供が社会人となる。世代をにらみ、安心に暮せる、保育や医療を良く考え、“初期医療に重きを置く”市の医療システムを考て下さい。
(専門的医療ははびきの他、大病院活用)

59番 70歳代

はじめに、日本国憲法25条2項には公衆衛生の向上、地方自治法第1条の2には住民の福祉の増進に努めることをうたっていますが、今回の、藤井寺市民病院をつぶす方針は、この日本国憲法や地方自治法に逆行するものとしか言えません。藤井寺市政の長であるならば、日本国憲法や、地方自治をしっかりと学び、その立場での市政運営に頑張っていていただくべきではないでしょうか。

今回の市民病院廃院の検討は、経営難と医師不足を理由にしているが、経営難は、以前から言われてきたことであり、本当に、岡田市長が市民病院を守るといふ気持ちがあるならば、この経営難をどう改善するか、具体的な対策をどうするか、に全力を挙げるべきではないでしょうか。どの家庭でも、企業でも、経営が厳しいからと言って、安易に投げ捨てたり、解散することはせず、まず、立て直しに、無駄をなくすことや借入もしながら改善計画を立てて頑張るものです。ところが今回の説明会では、こういった計画は示されず、また、これまで経営立て直しのため何をしてきたのかなど明らかにされず、単純に、現時点の経営難を理由に一方的に廃院とするとしていますが、市民として納得できるものではありません。そもそも、岡田市長は、第1期のおり市民病院を守ると言っており、今年行われた市長選挙の公約でも廃止の公約もありませんでした。今回の岡田市長の態度は、無責任な責任逃れであり、市民に対しての背信行為としか言えません。

もう一つの医師不足問題は、どの病院でも医師不足が叫ばれ、藤井寺市民病院だけではありません。それだけに、それぞれの病院は、特色を出したり、待遇の改善などに努力をしながら必死で確保のために頑張っています。今回の説明会では、どこどこにお願いに何回行き、応じてもらえなかったという理由だけを挙げていますが、確保するために、相手にどういう事を提示し、市民病院の必要性を訴えたのかなど示されていません。

藤井寺市内には、総合病院は、市民病院を除いて1か所しかありません。高齢者は医療難民となってしまう街となります。高齢者を大切にしようという気があるならば、市民病院は存続させ、市民のニーズに合った科なども設けて、市民が利用しやすい病院にさせていただく事をお願いします。

60番 80歳代以上

11日の説明会に参加し、多くの人から市民病院を残してほしいの意見を聞き私も全くその通りと思いました。

過去2回の説明会場でも圧倒的多数の市民から市民病院の存続を求める声があったと聞いています。それなのに、岡田市長は自身のメールで（15日）市民病院を廃止するとのコメントを出されました。市民への説明会は単に市民向けのポーズですか。こんな市民の意見を無視した決定は断じて許されるものではありません！！

61番 60歳代

市民病院は、市民の命と健康、藤井寺市で入院できる病院を守るため、継続、充実していく立場に立って下さい。

医師不足は、もっと本腰を入れて、何としても病院を守るという決意で、医師の補充をして下さい。

又、病院まで送迎バスを運行すれば通院する方も増えるなど、利用者が増えれば存続は可能になると思います。

色いろな手段を考えて市民の声をきいて市民病院は無くすことなく継続、充実の方向へ……。

62番 80歳代以上

市民病院廃院しないで下さい。

これから、もっと高齢者が多くなります。

その時はどうすれば良いのですか？

経営悪化？その前に少しでも良くなる様に努力をしたのですか？

市民病院廃院絶対反対です。

63番 60歳代

1. 誘致希望←特に周辺の人々の意見

(1) 個人病院や法人病院

(2) 皮膚科・耳鼻咽喉科・外科

2. 建物を継続して使用

廃墟になると危険な人々が侵入したり防災等も発生可能。

警察・消防・市役所に迷惑がかかる。

64番 60歳代

藤井寺市民病院は閉院ではなく、機能を縮小してでも存続させるべきだと思います。

小児科を充実させ、産科を新設など、出産やこどもの診療を拡充していくことと、子育て事業の拡充で「子育てしやすい町 藤井寺」として若者や子育て世帯の定住や移住を推進していくことが藤井寺市の活性化につながると思います。

藤井寺市の未来を考えた時、市民病院には市民病院にしかできないことがあると思います。

65番 80歳代以上

どうして赤字になっているのか？

40年以上通院しています。先生看護師さん皆さん本当に良くして頂きます。小児科も有り立派な医の機々も有ります。ぜひ残して欲しいです。

66番 70歳代

市長、市民病院の運営に本気で取り組まれましたか。病院の実情を職員と話し合い、改善策を考えたことはありますか。市民がどれほど病院を大切に思い信頼を寄せているかわかりますか。新型コロナ禍でいち早く発熱外来を置き、入院ベットを確保できたのは、市民病院だからです。今回の説明会では責任者の姿勢が見られません。あり方検討室も、あり方検討委員会も病院のマイナス面だけを論議し、廃院にするとの結論を出したと説明資料から読みとりました。「経営改善の観点からあり方を検討とありますが、何も示されていません。「実現可能なプランを模索」とありますが、それが唯一、廃院ですか。「将来の医療ニーズに合わない」「公立病院の役割を果たせない」というのは改善策を出さない、実施しないからではありませんか。

したがって出された基本方針（案）は認められません。残念ですが基本方針（案）を論ずる水準に達していないのです。地方自治の本旨に基づいて市民病院の存続・充実に力を尽くして下さい。情報公開を徹底し、市民の声をとり入れて下さい。

67番 70歳代

8月11日の市民病院のあり方に関する基本方針（案）の説明会に参加しました。

平成6年3月に閉院すると説明を受けて、あまりに拙速な方針にびっくりしました。あり方検討室を設置し、有識者の市民病院のあり方検討会を5回開催し（内2回は何か非公開）で行われました。

そして、閉院とはあまりにも市民を馬鹿にした決定ではありませんか。病院経営者、行政の担当者は残すための努力はしないのですか？

もともと98床の小病院なので経営については今頃検討するのではなく、将来を見越して検討するべきです。あり方検討委員会の論議でも公的病院の役割が十分果たせてなかった部分があるとの発言もありました。

厚労省の地域医療構想が出され急性期ベットの抑制が出され、市民病院が対象になりましたが、南河内医療協議会では市民病院のみ継続審議になっています。その報告書も一貫性がないことが保険医協会の方の勉強会で分かりました。隣の柏原病院や富田林病院の報告書を見てびっくりしました。

大阪府も98床病院だから運営は厳しいものがあると認識されていたと思いますが、報告書があまりにもお粗末で継続審議になったのではないですか？

柏原病院は地域包括ケア2への転換や、在宅医療のバックアップ（介護施設での急変や骨折などに24時間対応することや、介護施設への訪問など連携を強める施策を実行しています。また、がん医療については、大阪府がん診療拠点病院の指定を受け、緩和ケア病棟を開院し、がんのトータルケア可能にしています。このような取り組みは考えなかったのですか？

大阪公立大学医学部付属病院と医療機能連携の提携により大学医局や医師との連携を深めることは、医師の派遣にも有効に働くのではないのでしょうか。

八尾市民病院ではコロナ禍の中、感染防止の感染用具不足のため市民に（コロナ寄付）をお願いしたり、出前講座や認定看護師の自宅訪問など多様な取り組みを行っています。

藤井寺市民病院はどのような取り組みをしたのですか？

病床の稼働率を表記していますが、コロナ禍の数年の稼働率が表記されています。特殊な時期ですよ。特に公的病院として1病棟をコロナ病棟して38床を9床として運営してましたよね。稼働率が落ちてくるのは当たり前でしょう。医師が不足しているのはどの医療機関でも多かれ少なかれあると思います。

あり方検討会の議長さんが言われてましたが、病院としても宣伝が足りなかったのでは。最近ネットでは病院の情報を検索し受診を決めていると思います。病院の評価として（機能評価）がありますが、藤井寺の市民病院は機能評価獲得はしてなかったのですか？

病院や行政としてなんの努力もしないまま閉院にするのですか。市民に対して失礼ではないですか。

今日岡田市長のツイッターで「反対のお声も多く頂きましたが、市全体の財政への影響を考えると今年度末の閉院はやむ得ないと考えます」ツイートしていました。どういうことですかまだパブリックコメントの受付中ですよ。説明会で「市民のご意見も十分聞いて論議します」お話されてたじゃないですか。市民病院

は市長の私物ではありません。最低ですね。市長 2 期目ですよ最低のルールは順守してください。

68 番 50 歳代

先日、説明会に参加いたしました。8月の公報で市民病院廃院の方針を初めて知った市民の一人です。他にもそのような方がいらっしゃるのではないのでしょうか？説明会ではあくまでも（案）であると、強調されておりましたが、廃院は決定で、説明会はアリバイ作りに過ぎないと感じました。

基本方針案で、1 地域医療の交代にならぬように努める。（入院病床は確実に減る。）2 利用者の引継ぎ等万全の対策を講じるとありますが、2 つとも（案）にしめすまでもなく、当たり前・当然のことです。4 連携病院の確保については、現時点では何も言えないとのこと。これでは、市民の安心は得られません。

廃院になれば、入院できうる病床はゼロになります。

普段、お世話になる、なっていないにかかわらず、市民病院は市民にとっては、重要な機関です。春の地方選挙終了のタイミングで、廃院案が示され、その方向に進もうとしています。

（国政でもよくあることかもしれませんが）市側はずるいと思います。

市民病院廃院の是非について、住民投票を行い、民意を問うて頂きたいと思います。

住民投票が叶えば、その中で議論も行われ、理解も深まるのではないのでしょうか。

69 番 70 歳代

8月9日の市民説明会に参加しました。

市民病院の廃院は説明不足であり、市民病院を存続するために、何もしていないように感じました。

収益が悪化しているのは医師の確保ができていないため。医師にすべての責任を押し付けているようです。

クリニックの先生から「医師がいないから検査ができない、事後の診察もできないだから受入ができない」ということを聞いています

患者数が減少し、ベットが埋まらないのは当たり前です。

廃院を決めるまえに、裏切られた市大だけに頼らず医師の確保に全力を注ぐよう要望します。

シミ m が市民病院の存続は市長が決めるものではなく、市民が決めるものです。

住民投票で決めることはできないのですか。

70 番 50 歳代

この前市役所に電話をかけたなら閉院はまだ正式決定ではないといわれました。市民としては閉院するならばやく次の病院を紹介してほしいです。

市民病院でも紹介の相談は受けつけているということですが閉院は決まっているのでしょうか。わからない状態が一番不安です。

道明寺病院がなくなるのはさびしいですけど若い世代に負担をかけるのも申し訳ないです。他に病院もありますし、私たちが少しだけ不便をした結果、今の若い方たちのためにお金を使えるならそれに越したことはないと思います。（保育所、学校教育など）

苦言を申しあげるようですが決まっていることは早く市民に伝わるようにしてください。

71 番 30 歳代

廃止してから代替先を確保するのではなく、順番を間違えている。

また、民間に委託した際に安定供給する義務は誰が負うのか。

努めることは確保することとは異なる。その上で廃止前提とすることは受け入れがたい。

廃止の背景の説明不足と感じる。

72番 70歳代

基本方針（案）の「閉院」を撤回して下さい。まず市民病院のあり方について市民にアンケートを配布して、市民の意見を基に検討を進めて下さい。説明会に参加しましたが、これまで赤字解消の為に市民にどの様に意見を聞き、それを基に市としてどんな施策を実施してきたのか、一切説明が有りませんでした。始めから「閉院」有りきの一方的な方針（案）の押し付けでしか有りません。

市民病院は市民の税金で運営されてきた市民の命と健康を守る使命を負っています。行政の持ち物ではありません。市長を先頭に行政には市民の命と健康を守る使命を負っています。市民病院のあり方を「経営改革の観点」からだけでなく市民の命と健康を守る観点から市民の意見を聞きながら、一から市民病院のあり方を再検討すべきです。

73番 60歳代

私は柏原市在住の市立藤井寺市民病院（以下「市民病院」）の利用者です。私の地域では市民病院が公立病院としては最も近い病院です。柏原市全体は八尾・東大阪と「中河内」として行政的には括られることがあります。生活の実態としては「柏羽藤」というまとまりが強いです。消防、ごみ処理、給食（柏藤）、保健所、ハローワーク等々が行政として具体的に進められています。今回の市民病院の廃止の提案については、当該の藤井寺市民だけでなく、近隣市民の意見も聞いていただきたいと思います。

①私は廃止の大きな根拠となっている厚労省の「再検証要請対象期間」については反対です。

藤井寺市としてそれに対して反対、もしくは不承認の立場に立ってください。

②藤井寺市が市民病院の継続を単独で行うのではなく、近隣の行政区と大阪府の問題として取り組んでください。

③私は市民病院に最先端医療や特殊な医療を求めてはいません。身近な公立病院として現行の診療体制を拡充させながら、要望の強い高齢者の医療（リハビリ・急性期・慢性期など）に対応できる病院にしていただきたいと思います。

74番 70歳代

もう腸の手術、胃ガンの手術と人生の大切な時に市民病院にお世話になりました。50年以上も前からです。

今後も公立公営で運営していただきたく、切に切に、お願いいたします。

75番 40歳代

私の家族は市民病院の職員です。

先日説明会もされましたが、内容はほぼ市民へのパフォーマンスであり、市は廃院決定の前提で話していました。

医師の不足や離反、経営状況の悪化により、廃院は市、院長の健闘むなしく時代の流れに沿わなくなりやむを得ないことだとの説明でしたが、市民からすれば何の対処も改善もせず何年も前から廃院の方向で進めていたように見え、結果質疑応答では参加者から激しい反発、指摘がありました。

市民の方々個々に反対の理由、不安はあるかと思いますがここでは私は職員の家族としての視点で意見を述べたいと思います。

まず一番の不安はこの後の生活です。市にはどうでもよい話かと思いますが私達には生活プランもありました。

退職金で家のローンも支払うつもりでしたし、これから子供たちも成長し、塾、高校、大学に多額の費用がかかります。今から就職先が変わるということは給料も確実に減りますし、新しい場所で仕事を覚え、人間関係を築いていかなければならない。40代半ばでこんなストレスを抱えることになる体調が心配です。

本人も退職を望んでいません。

全ては公務員という将来が見通せる職についた上での人生設計です。

なぜ安定した事が保障されている公務員を目指し採用試験も乗り越え、コロナの最盛期にも現場の最前線で対峙し、今まで真面目に働いてきた私の家族が突然こんなリスクにさらされなければいけないのでしょうか？

コロナも落ち着いてきた頃、突然『来年3月で廃院するから黙って理解してこちらの指示通り辞めてくれ、再就職先も勝手に探してくれ。』ではあまりにもひどい対応です。それは、説明会の質疑応答の際、廃院になることがわかるまでに改善、対処をした経緯が何も見られない。という意見が参加者から多数出たことから、ほかの方々にも同様の対応をしていることがわかりました。

他の方々それぞれ要望があるかと思いますが、私たち職員と家族の具体的な要望は

①退職金の更なる上乘せ（基本額の特例の優遇措置の対象者を全職員に）

②再就職先への今と変わらない給料交渉

③就職活動のための特別休暇10日以上

です。

また、事務職希望者も多いようなので希望者全員の受け入れをお願い致します。

また今後の病院の方向性が決定次第、また報告会をされると思いますがその時は必ず院長に明確かつ具体的な説明をしていただけるよう約束してください。

説明会で何度か院長の話も出たと思いますがなぜか市からの院長への付度が異常で、強い違和感を感じました。

院長を出席させることができない何か大きな闇があるのではないかと。そう思われても仕方がない対応でした。

報告会ではぜひ市民への説明よろしくお願い致します。

広報だけで済まそうなんて市民は許さないとしますので。

ここでは私達の実害を書きましたが市民の方々それぞれ個々に実害があるはずです。

周囲からは廃院に対して反対の声しかありません。

市民の声を無視しないでください。

76番 60歳代

藤井寺市には、大きな医療施設が少ないなか、市立藤井寺市民病院がなくなるのは市民には大きな不安を感じている方が多いのではないのでしょうか。

赤字を補填するために売るということではなく、せつかくの市の土地なので、ぜひ藤井寺市民のためになるものを作って欲しいと思います。まずは、引き続き維持できる方法を模索していただきたいです。

市民病院が廃院となる場合でも、市民の不安を少しでも軽減するために、機能を他にスムーズに移行するようにしてもらいたいです。

また、市民の健康増進によってこれからの医療費削減をするためにも、市民健診内容を充実させる、市民がよりアクセスしやすくするなどしてほしいです。（自治体によっては、検査項目がもっと多い、胃検診では胃カメラも申し込めるとか、一度に健診をできる制度、場所をもうける、などのところもあります）

また、市役所の支所機能のある場所、親と子どもが集える場所、高齢者が集まれる場所など・・・コミュニティセンターのようなものが出来たらよいなあと思います。

子育てしやすい藤井寺として認知されれば若い家族も住み続けてくれるのではないのでしょうか。

世界遺産もあって歴史もあり、住みやすく市民が誇りをもって住み続けられるように、藤井寺市の市民のために活かしていただきたいです。